令和６年（2024）11月15日発行（Vol.11）　　発行：葛飾区生涯学習課文化的景観係

「葛飾柴又の文化的景観」ニュース

「帝釈天王安置の碑」が伝えてくれる柴又の賑わいと江戸文化

2つの帝釈道が出会う地に佇む「帝釈天王安置の碑」。玉垣に囲まれ、安山岩でできた大きな石碑です。帝釈天題経寺へと誘う参道の始まりを知らせてくれる、その堂々たる佇まいを構成する碑の塔身や台座、玉垣には多くの文字が刻まれています。今号では、江戸時代より、この地を訪れる人々を出迎え、見守ってきたこの石碑から見えてくる柴又と江戸・東京との関係を紐解き、当時の風景に思いを馳せてみたいと思います。

柴又駅から歩を進めてくると、まず目に入るのが「南無妙法蓮華經」の日蓮宗の題目です。筆端を髭のように伸ばすことから「髭題目」と呼ばれています。そして、南側には「帝釋天王安置」、台座には山号の「經榮山」の文字が刻まれています。帝釈道を歩いてきた江戸の人々は、この碑を見て柴又の地に到着したことを知り、この先にある日蓮宗の寺院、柴又帝釈天（正式名称「経栄山題経寺」）の聖域に近づいたことを実感します。心を整え、厳かな気持ちで参道の歩みを進めていくためのスイッチのような役割を果たしたのではないでしょうか。

参道側からは見ることができない塔身の東側には、「諸天昼夜常為法故而衛護之」（善神が昼夜にわたって衛護してくれている）の文字、北側には、幕末のペリーの黒船来航を4年後に控えた嘉永2年(1849)の仲春(陰暦の2月)の庚申の日にこの碑が造立されたことが、帝釈天題経寺の13世潮音院日貞上人の揮毫と共に刻まれています。

「葛飾柴又の文化的景観」の重要な構成要素『帝釈天王安置の碑』。塔身の西側面には「南無妙法蓮華經」、南側面には「帝釋天王安置」、台座の西側面には「經榮山」の文字が刻まれ、ここから始まる参道の先に帝釈天が祀られる寺院があることを参詣客に伝えています。

《東側》

諸天昼夜常為
法故而衛護之

《北側》

嘉永二己酉歲　潮音院
仲春庚申建之　日貞（花押）

台座の南側と東側に刻まれた文字からは更に興味深いことが見えてきます。ここには碑の造立に関わった人々の名前や住所地などが刻まれていますが、地元柴又のみならず、葛西地域(現在の葛飾・江戸川・墨田・江東区域を合わせた領域)の人々の名前や屋号、地名などが見当たらないのです。ここには、住所地で見ていくと、湯島(文京区)、下谷、浅草の三間町・猿若町(台東区)、その周辺の新吉原・新鳥越町(台東区)、千住(足立区)等の地名が見られ、隅田川沿いの地域が多く刻まれています。ここから見えてくるのは、帝釈天題経寺の信仰が江戸時代後期には、こうした地域にまで広まっていたということです。

また、職種で見ていくと、歌舞伎関連と旅籠(はたご)等の宿場関連のふたつの職種が浮かび上がってきます。歌舞伎関連としては、「中村歌右衛門」や「坂東三津五郎」などの歌舞伎役者の名前のほか、当時、江戸幕府公認の歌舞伎の芝居小屋であった江戸三座（市村座・中村座・森田座）のひとつである「市村座」の「木戸中」や「楽屋口中」といった名前が見えます。宿場関連としては、千住宿の旅籠経営者等の名前や屋号が見えます。

このような特定の業界の人々が碑の造立に関わった確たる理由は不明です。もちろん信仰心からの寄進が第一の理由として挙げられますが、その他にもいくつかの可能性が考えられます。

（次頁へ続く→）

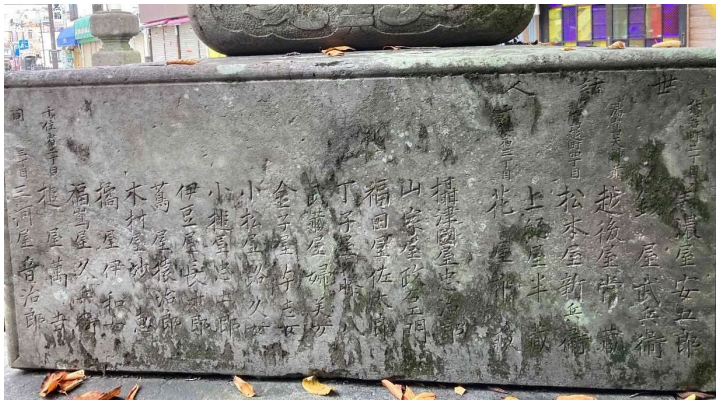
その１つは、柴又、特に帝釈天題経寺という場所が宣伝効果の高い地であり、寄進という形で広告の“投資”をする価値がある場所だったということです。歌舞伎の興行や旅籠等の経営において、どこに広告を出すかは重要な戦略となります。帝釈天題経寺は、江戸近郊の流行寺として多くの参詣客を集めていました。日常の喧騒から離れ、非日常の時間を堪能できる癒しの地でありつつ、日帰りで訪れることができる手軽さのあった柴又帝釈天詣で(もうで)は、江戸・東京の人々の人気を集めました。特に、安永8年(1779)の板本尊の発見以来、60日毎に訪れる「庚申」前夜の「宵庚申」の日には、江戸市中から帝釈天題経寺に向かう提灯の行列が引きも切らずに続いていたといわれています。たくさんの人の目に触れる場所であり、しかも、江戸の人々、信心深い人々、旅をすることを好む人々、こうした顧客としてのターゲットが合致する場所であったと考えることができるかもしれません。

千住宿は、五街道のひとつである日光街道の１番目の宿場町です。日光街道は、日光や東北方面に向かう人々に加え、水戸佐倉道を経由して鹿島神宮や成田山新勝寺へ向かう旅人が通る街道でした。柴又を訪れるにも、日光街道から水戸佐倉道に入り、帝釈道(上手道)を通るルートがあります。ただ、公用以外の私的な旅の場合は千住を経由しないルートを選択する人も多かったようです。「次に柴又を訪れる際、あるいは、成田山新勝寺などに旅に出る際は、千住宿に立ち寄り、宿をご利用下さい」、そんなメッセージが込められていたのかもしれません。

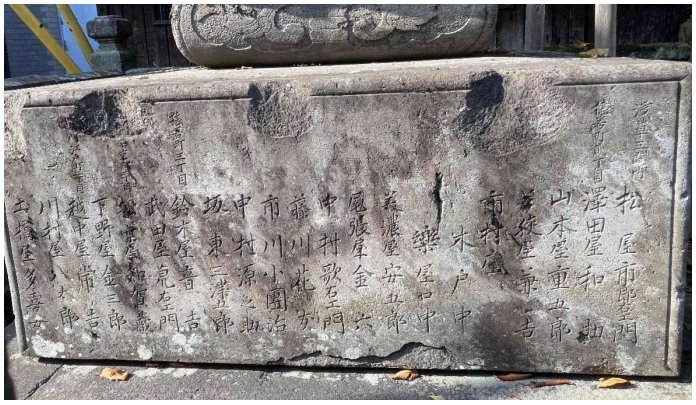
一方の歌舞伎関係者が造立に関わったのは、見物客誘致という目的と共に、当時の歌舞伎が置かれていた厳しい環境が少なからず影響していたと考えられます。歌舞伎見物は、江戸の人々の楽しみのひとつであり、町人文化の中心的存在でさえありましたが、時の老中水野忠邦(みずのただくに)は天保の改革を推し進め、幕府立て直しのために徹底して贅沢を取り締まりました。この一環で、歌舞伎の芝居小屋は江戸市中から郊外の浅草猿若町(台東区)に強制移転させられました。こうした状況の中、柴又を訪れる江戸の人々に向けて歌舞伎を宣伝した時代背景が見えてきます。ちなみに、碑に刻まれている「市村座」では、帝釈天題経寺を題材にした『三人吉三廓初買』(さんにんきちさくるわのはつがい)という演目が上演されています。こうした演目の上演は帝釈天題経寺の参詣客を意識していた可能性があり、当時、柴又を目指す行楽客がいかに多く、その影響力がいかに大きかったかを伺い知ることができます。

この石碑から見えてくる時代背景、ここに込められた造立に関わった人々の思い、そして、江戸と柴又との繋がりや距離感。この石碑は、170年の時を超えて、当時の人々の暮らしや文化を私たちに伝えてくれる貴重な碑なのです。

《台座の東側》



《台座の南側》



世話人

猿若町二丁目　美濃屋安五郎
湯島天神前　錢屋武兵衛
越後屋常蔵
新鳥越町四丁目　松本屋新兵衛
上総屋半蔵
千住宿三丁目　花屋市蔵
摂津國屋忠治郎
山家政右工門
福田屋佐太郎
丁子屋藤八
武蔵屋婦美女
金子屋与志女
小松屋路久女
小槌屋忠五郎
伊豆屋長十郎
蔦屋猿治郎
木村屋妙恵
橘屋伊和女
福鳥屋久兵
千住宿二丁目　槌屋萬吉
同三丁目　三河屋音治郎

浅草三間町　松屋市郎右工門
猿若町二丁目　沢田屋和助
山本屋重五郎
若狭屋兼吉
市村座　木戸中
楽屋口中
美濃屋安五郎
尾張屋金六
中村歌右工門
藤川花友
市川小團治
中村源之助
坂東三津五郎
猿若町三丁目　鈴木屋音吉
武田屋虎右工門
〔新吉〕原京町二丁目　松葉屋和賀蔵
下野屋金三郎
〔同〕所江戸町二丁目　越中屋常吉
川村屋八太郎
土橋屋多喜女

※〔 〕書きは石が欠けた部分　※赤字は宿場関係、青字は歌舞伎関係

変わらないことの魅力、皆で守っていくことの価値

柴又のまちとここで暮らす人々を災害から守る
（柴又自治会　会長　関 益義氏）

柴又自治会では、柴又のまちと住民を守る取組として、毎年防災訓練を実施しています。柴又の小学生と保護者など1,200人以上が参加する大規模な事業です。この間、新型コロナの影響で実施できなかったのですが、今年は久しぶりに開催することができました。例年9月1日に実施していましたが、今年は熱中症対策のため、柴又小学校と東柴又小学校の校長先生と相談して9月の第4土曜日に実施することにしました。当日はまず、各小学校から江戸川河川敷までの避難訓練を行います。その後、警察署や消防署・消防団に協力頂いて人工呼吸などの応急処置や消火器の扱い方、放水訓練、起震車の体験、煙の体験など、子どもたちに色んな体験をして頂きます。その後、保護者に来て頂き、お子さんの引き取り訓練を行います。また、毎年1月26日の文化財防火デーには、帝釈天題経寺で行われる消火訓練にも柴又自治会として参加しているほか、消防署の協力を得て自治会の役員がスタンドパイプの扱い方を学んだり、警察署の水難救助訓練に参加したりしています。

葛飾柴又が国の重要文化的景観に選定される前に、学識の先生方を交えた会議に参加しました。今の時代は、歴史あるまちもどんどん変わっていってしまうけれど、柴又のまちは昔と変わらないままに残っていることに価値があり、ここが文化的景観を守っていく取組の原点だと説明を受けました。柴又に暮らす全ての方々を災害から守り、そして、重要文化的景観に選定された柴又のまちなみを災害から守るため、今後とも自治会として皆で協力して防災に力を入れていきたいと思います。また、文化的景観のことを勉強し、景観を守る取組に協力していきたいと思っています。

この地域の人々が中心となって、柴又らしい風景や人情味あふれるまちを後世に継承する
（特定非営利活動法人柴又まちなみ協議会　理事長　石川 宏太氏）

柴又のまちなみを守る取組のきっかけは、昭和63年に帝釈天様の前で持ち上がったマンションの建設計画です。当時の御前様を委員長とする「門前まちなみ委員会」が設立され、皆でマンション業者に申し入れ、建物の高さを抑えて頂きました。平成16年には「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」の景観重点地区の指定を受け、平成19年にNPO法人柴又まちなみ協議会を設立しました。寅さんブームの中で急増した観光客に合わせて、各店が個性を失い、柴又らしさや魅力を見失ってしまう危惧があり、自分達のまちを自分達で守ろうと取組を始めましたが、その道のりは大変でした。『男はつらいよ』が公開されていた頃は年間400万人もの方が柴又を訪れていましたが、徐々に減ってきていた時期でもありました。参道の周囲に高い建物が建ち始め、参道でもお店を高層化したいとか、マンションを建てたいといった構想を持つ方もいて、建物の制限等はビジネスに影響があると反対する方もいました。しかし、「変えない開発」と「一店一品主義」をテーマに掲げ、一人一人と丁寧に議論を重ねました。立ち止まってみた時、ここで何代にもわたって続けてきた商売をこれからも継承していくためには、この景観を守り、柴又らしさを守っていくことが、魅力的でオンリーワンのまちになることに気づいたんです。映画に映し出されたまちなみやお店を見に来て頂ける方もたくさんいます。柴又には伝統ある名物があり、各お店が商品をブランド化して付加価値を高めていけば、参道全体で一つの観光物産センターになります。そんなことを機会ある度にお話し、4年位かかって賛同を得て、平成20年に「柴又まちなみ景観ガイドライン」ができました。

柴又は、不便さもあるけどノスタルジックで、それが魅力であり個性です。だから「変えない」ことが、このまちの発展に繋がるのだと思います。海外の方も柴又に魅力を感じ、夕暮れの参道のライトアップを写真に撮って下さいます。でも柴又は、外国の方に対してもこれまで通りなんです。外国の方にとってはそれが魅力的なんだそうです。皆で懸命に守ってきた柴又の景観や生業が国の重要文化的景観として評価されたことは本当に誇らしいことです。僕達はこれを若い人に伝え、さらに22世紀へと繋げていって頂きたいと願っています。

◆皆で作ったルール「柴又まちなみ景観ガイドライン」

柴又のまちなみを守るために皆で取り決めた紳士協定。柴又地域が目指す街の将来像や、地区全体で統一的な景観を形成するための考え方が示されています。柴又六丁目の一部及び柴又七丁目の一部を重点地区に指定し、中でも特徴的なエリアとして「参道エリア」「帝釈天エリア」を設定しています。重点地区内で建築や改修等を行う場合は、運営主体であるNPO法人柴又まちなみ協議会とガイドラインに基づく協議・調整を行います。柴又らしい親しみあるまちなみや緑豊かな魅力的な景観を守り、後世へと継承していく大切な制度です。

平成20年2月20日東京都告示第170号

柴又帝釈天の二天門の鳩対策

帝釈天題経寺の楼門である二天門は、鳩の糞による汚損で貴重な彫刻などが損なわれる深刻な状況でした。9月、鳩の糞の除去作業と防鳥ネットの設置工事が行われ、彫刻のノミの跡が見える程、美しく蘇りました。

鳩はエサがある場所に集まり、やがてそこに巣を作ります。二天門をはじめ帝釈天題経寺の貴重な建造物を守るため、また、生態系を守るためにも、鳩へのエサやりをしないよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

洗浄作業後の「二天門」(葛飾柴又の文化的景観・重要な構成要素)

水神様祠の修復工事が行われました

2か年にわたる水神様祠の解体修復作業が8月に完了しました。基壇の大谷石を新たに積み直し、祠も従前の部材を可能な限り使用して組み直されました。柴又で焼かれ、帝釈天題経寺等でも使われている柴安瓦や金町で焼かれた金松瓦の使用が確認された屋根瓦も葺き直され、美しい姿に蘇りました。

昔も今も私達の生活に欠かすことのできない大切な水。柴又に水の恵みをもたらし、柴又を水害から守ってくれる水神様は、これからも柴又に暮らす人々の生活を見守り続けてくれることでしょう。

修復後の「水神様」(葛飾柴又の文化的景観・重要な構成要素)

「山本亭・柴又公園ライトアップ」(11月23日(土)・24日(日)17時～21時、主催:葛飾区観光協会)と柴又の宵の景観の中で串グルメや音楽などを楽しめる**「柴又宵フェスタ」**(11月23日(土)16時30分～20時30分、主催:葛飾区観光課)が帝釈天参道等で開催されます。夜通し賑わった宵庚申の風景に思いを馳せながら、秋の柴又をお楽しみ下さい。

ご注意ください

「葛飾柴又の文化的景観」の選定範囲内で工事等を行う際、協議や届出等が必要な場合があります。

○ **柴又まちなみ景観ガイドライン**（特定非営利活動法人柴又まちなみ協議会）
柴又6丁目の一部・7丁目の一部において建築・改修等工事を行う場合

○ **葛飾区景観地区条例等**（葛飾区都市計画課）
柴又地域景観地区内で建築物や工作物の新築、新設、外観の変更等を行う場合

○ **重要文化的景観に係る選定及び届出等に関する規則**（葛飾区生涯学習課）
重要な構成要素がき損した場合や工事等を行う場合

「文化的景観ニュース」のバックナンバーのほか、「葛飾柴又の文化的景観整備計画」や「文化的景観パンフレット」を、上記QRコードよりご覧いただけます。

【お問合せはコチラ】 葛飾区教育委員会事務局生涯学習課文化的景観係
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1　TEL 03-5654-8477　FAX 03-5698-1541